

全道展機関紙“ZEN”第8号 昭和57年2月28日発行
 発行所 全道美術協会 事務局 〒061-21 札幌市南区澄川6条12丁目
 渡会純价方 T011 (581) 2528
 印刷 中西印刷株式会社 011 (781) 7501
 編集委員 伊藤 寿朗 伊藤 俊子 岸本 裕躬
 小関恵久子 谷内 承 前野 昌市

ZEN

全道展機関紙

NO. 8

第37回 全道展公募

搬入・6月16日(水)、17日(木)札幌市民ギャラリー・AM10:00～PM6:00

〈大きさ点数制限なし〉

会期・6月30日(水)～7月11日(日)札幌市民ギャラリー・AM10:00～PM7:00

主催・全道美術協会・北海道新聞社

・出品を希望する方は返信用切手60円を添え応募目録用紙を〒060-91札幌市中央区大通西3丁目北海道新聞社事務局文化部全道展係に請求下さい。昨年の応募者には送付し、有名画材店頭にも置いてあります。

—— 今年前半売券を発売予定 ——

●市民ギャラリー

美術家にとって待ち焦れた、開放的でゆりのある美術の広場が、百四十余万の都市、札幌市にやっと誕生した。

五年間通いなれた道立近代美術館との別れも寂しいが、何んとしてもわが全道展の会場としては手狭であったことは否めない。これを機会に、道立近代美術館としても独自の系統的企画のみの展覧会を主催することになったそうである。

即ち、在野組織は全て、この札幌市民ギャラリーの使用となる。その美術界のトップとして、第37回全道展は開催されることになった。

この地域は馴染みの薄い土地だけに、当初は大衆の足が心配である。しかし、館内のイメージ・スケールは、満足させてくれた様であるし、企画も多くなり、近い将来には多くの市民はもとより、道内外の足を集めるに違いない。そして西に近美、東に市民ギャラリーとして親しまれるであろう。

●会期

搬入・会期は表題のとおりで、場所は共に市民ギャラリーで行なわれるので間違わぬ様に願いたい。従来、搬入を休日にとっていたが、会場の都合で平日となった。

但し、搬入時間は一時間延長し午後六時までとし、会期の開館時間は二時間延長し午後七時までと、便宜を計らう様にした。

●60号以下一点附加条件は廃止

狭隘な会場が誘引で行われてきた、絵画の搬入時に60号以下一点を付けることは廃止されることになった。予て出品者各層から議論

を呼んだこの条件は、一応白紙に戻すが、三会期続けてみて、コンボジション(広義)等、メチェでの功は奏してきたと思う。

器が大きくなれば、大作(この場合大きな意)が良いとは限らない。質的向上をめざした力作を望みたい。審査に当っては緩選にならぬことを戒めているこの頃の審査員の面々である。他ならぬ力作は二点の入選も認めることになるであろう。やはり新しい皮袋には、新しい酒を注ぎたいものである。

●巡回展

今年も本展を終えた後、道内を巡回する。今年は、美術界不毛の地と言われてきた道北、稚内に公募展としては初めて全道展が開催されることになった。地道に制作している人は多いと思うが、これが機会に大衆への啓蒙と、美術の発展に寄与することになれば、本会の趣旨とするところである。

巡回展は稚内を皮切りに、旭川、網走、中標津、斜里、帯広、根室、室蘭、美唄、函館と廻る。

●これから

気が早いですが、市民ギャラリーとなつて使用規定に従い、来年度の会期も決つた。今年と同時期の昭和五十八年六月二十九日～七月一日となる。搬入は六月十五、十六日両日。例年この時期を全道展と心得ておいて頂きたい。(事務局・渡会純价)

第24回学生美術全道展

会期・9月2日(木)～7日(火)
 会場・札幌⑨デパート一条館8階
 搬入・8月29日(日)札幌市民会館
 (AM10時～PM5時)

全道展の新会場紹介

札幌市民ギャラリーのあらまし

会務委員・谷口 一芳

いつも全道展がはじまると会場が充分ではなく、搬入、審査、保管、陳列など運営全般にわたって悩んできたところであった。

このたび待望の札幌市民ギャラリーが2月28日札幌美術館から開館することになり、美術公募団体はひとしくよろこびにひたっている。しかし、その規模となると不安がもちあがるもの、そこで百聞は一見に如かずと、2月6日会務委、地区連絡員の合同で見学したので、あらましをお知らせする。

はじめて見た私共は一巡の後、期せずして言ったことは、想像したよりはるかによいのではないか、という感想であった。

一、所在地（略図参照）大通地下街から15分程で、雨天とか、信号まちがすくなくて便利のようである。

二、展示会場（図表参照）

なんとといっても会場機能の問題が良否を決定する。展示室は一、二階で、五室のメーンからなり、各室独立した長方形で並列、接続している。

第一室のみ29.5×9mで、二階まで吹抜となっており、長尺作品は二階からもふかんできける。

他の四室は27×7.5m前後で若干小さくなっている。しかし、壁の移動も可能で二室つづけることも可能になっている。

関心事の最大は壁面のこと、第2室から第5室までにある移動式壁も、固定壁と同様の高さで、同じ面積に仕切られ、条件は均一になる。これを加えると総壁面長525mになる。

なる。いままでの会場では300mあまりであったことを考えれば大きな前進である。

さらに予備室、2階にある展示ホール、ロビーの利用もでき、一層よい各部門の陳列会場構成が組むことができる。もちろん審査会場も含めて一環した運営が可能となり、好ましい本来のあるべき姿を備えている。

壁の色はパールグレイで、照度も程よく明るく、作品を飾る方式は道立近代美術館同様吊懸となり、一本の紐で、40kgの重量にたえる由である。

このようなよい会場ができたので、それにふさわしい佳い作品を出品しなければ恥しい思いをすることになりかねない。兎も角も、出品者、観賞者ともに満足できそうである。

三、使用の申込、休館日、時間など

文化、芸術等については18カ月前の月始めから受付られる。使用料は省略するが、ほかよりも低廉である。既に相当の申込、承認されている様子。休館日は毎週の月曜日で、当日が祝日の場合には開館される。

使用時間は午前9時から午後9時までとなっている。作品等の展示、搬入、飾付、搬出に要する作業時間はすべて含まれている。

四、その他のことなど

作品の搬入出口は西口にあつて車で横付できるが、ギャラリー用駐車場の設備がないから注意を要する。

食堂はないが、一階ロビーに付設されて喫茶と軽食ができる由である。

	室名	床面積	天井高	壁面長	摘要
1階	第1室	315㎡	7.5m	73m	2階まで吹抜、長尺作品に適
	第2室	272	4.0	65	2と3、4と5室をそれぞれ壁を移動し続け室にできる。2-5室に移動式壁6m×4箇所設置できるようになっている。壁面長48m×4室=192m
	第3室	278	4.0	65	
2階	第4室	266	4.0	65	
	第5室	274	4.0	65	

1,405㎡

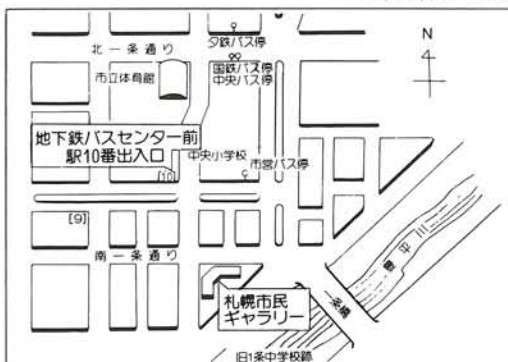
333m+192m=525m—総壁面長

1階	予備室	73	2.7	30	個展使用に適
2階	展示ホール1	143	2.7	独立バネルを使用	このほかロビー凡そ、250㎡があり、立体作品設置ができる。
階	＃2	94	2.7	＃	

札幌市民ギャラリー

札幌市中央区南2条東6丁目

☎(011)271-5471



札幌市民ギャラリーへは

地下鉄 東西線バスセンター前駅10番出口から徒歩1分
 市営バス 中央小学校前から徒歩1分
 国鉄バス 北1条東7丁目 } から徒歩3分
 中央バス 北1条東7丁目 }
 夕鉄バス 北1条東6丁目 }

全道展巡回展奮戦記(1)

■美展展

美唄市公民館事業係長

伊東 孝

全道美術協会編集委員会から教育委員会あて原稿依頼があり、誰がその任にあたるか協議したが、担当者が良からうというところで結局私のところに廻ってきた。期間が一週間もないこと、日曜祭日はさむ上に出張もあり、素直にいつて当惑したが、その器でないことも顧みず止むなく引き受けることになったしまった。

芸術だの文化ということに全く無縁である私のようなものが一枚の辞令によって公民館事業係にきたのは、S 54年の10月1日であったことを想い出す。何のことはない私の公民館での初仕事が全道展であった。

美唄市とこの巡回展とのかわりは、記録によるとS 26年第6回に三菱美唄鉱業所での実施が始りであり、S 23年函館丸井、S 24年苫小牧製紙に次ぐ古い歴史をもっている。二年後から美唄市が実施することになり何度かの中断はあったが今日に至っている。

当時は石炭産業の黄金時代で、美唄もS 25年に市制施行され、人口も約九万人炭都としてその名を全国に響かせていた頃である。地元からの出品、入選も多くこの方た

ちが巡回展開催のため積極的に努力されたのであろう。

あの頃は、美術は勿論、音楽、文芸等々全てが活発で、ヤマを中心に地域の文化が栄えていたといっても過言ではない。最近の巡回作品から地元出身者の名を見つけ出すのはむずかしい。寂しい限りである。

今年も九月八日から実施の予定である。

油絵を中心に版画、工芸、彫刻一〇〇点以上の大作が展示されるのであるが、大事な作品に傷をつけてはいけなさと随分と気を使うものである。展示には協会の先生の指示を受けながら陳列するのだが専用の展示会場でないため満足のいく状態とはなっていないのである。それにしても札幌通運のお二人は、例年のことで扱いは慣れているとはいえ、作者や作品のこと、他会場のことなど詳しく、いろいろ教えられることも多かった。

さて、肝心のPRについては、地元美術協会さんのお手伝いをいただきながら周知宣伝に努めているのだが、期間中の鑑賞者数が今一つもの足りない。開催歴史の長さからくるマンネリなのか、お役所的な片道広報のせいとか、いずれにしても努力不足と反省している。

ともあれ北海道のトップレベルにある作

会では名の如く全道から参加し出品している人達の展覧会ですから、全道の多くの皆さんに作品を見て頂こうと毎年全道各地で巡回展を開催しています。そこで、各開催地の担当諸氏に現地の様子や苦労談などを執筆していただきましてので御覧下さい。地元を担当、出品の方々ごころうさまで。

品とじかに接することができるとは、市民の教養、情操を高め地域の文化芸術の向上振興のためには良い機会であると思われる。一人でも多くの市民にみてもらいたいものと念じている。このため関係する多くのみなさんのご協力をお願いしたい。

■帯広展

会員・岡沼淳一

ぼくたちの昨年の巡回展の準備はZEN六号の消息欄に書いた様に三時間を越える大激論から始まったのだ。

文化行政も会場（市民会館）もだめなら独立採算の道を歩むしか残されていない。

そこで、田舎興業師兼ダフ屋の登場。

会場を文化の殿堂・市民会館からデパートへ移すという文化都市帯広にふさわしい方策を取れば、人が集まり赤字にならないという単純明快な論理に基づき、美術専用車の駐車スペースがない。「エレベーターには一〇〇号以上の作品は入らない。」「会場は七十坪しかない。」「田舎興業師へ帯広の老舗デパートが会場を貸すわけがない。」「等々周囲の親切過ぎる忠告を無視して、ぼくたちの危険きわまりない網渡り興業が準備された。

網渡りはあまり周囲を見ると目まいがし

て落下しそうになるので、巡回展はだれのためでもなく、ぼくたちのためだと信じ込んで渡るしかなかった。

ずい分と周囲の人々をハラハラさせたり、逆に支えてもらいながらも会場は確保できた。

ぼくたちのこの網渡り興業は、会期四日目に入場券の増刷という思いがけない事態を迎えて赤字の谷底へ墜落することなく成功した。

この成功は、三〇kmも四〇kmも離れた町から何回も駆け付けてくれた出品者・落選・不出品の人達が「ある時は企画頭脳者、また、ある時は前売券のダフ屋・荷上げ作業員・大工……。」といった変身の限りを尽くして、板内会員・遠藤会員と共に汗を流してくれたからだ。

二十五回展以後、七転八起で三十二回展まで続いた帯広展は八転で起きられずにいたが今回展は大成功。

地元月刊誌「せいけい」新年号を見よ。「全道展が久しぶりに帯広に来た。これが続いてくれることを望む人は多い。……十二月、十勝支部展が開かれるなど動きが活発化しているのが目立つ。……」

だが、十勝の厳しい寒さで頭を冷やせ。巡回展のために膨大な労苦と時間を費や

したではないか。三十七回展に帯広、十勝からどんな作品が出品されるか全道の皆さん乞御期待を。もし、レベルの低下があれば制作時間を奪われたことを悔んで巡回展の一回休みの声が出るかもしれない。

待て、大家風を吹かすな。自称文化人になるな。自己の質を高め、巡回展の作品群の中へ自己の作品を置け。その上で、地元の人たちの前で胸を張れ。

思い起こせ。一九七八年の神田日勝帯広展で市民会館へ一万数千人の人が押し寄せたことを。また、彼が二十五回展の巡回展の陳列作業中に発熱し故人となったことを。

中標津展

中標津町公民館 総務管理係長

横内建夫

「北海道の公募展の中で、全道展の作品が一番私たちに親しめる」「全道展の組織も運営も健全だ」「巡回展の方法も良心的だ」との、観覧者や関係者の声に励まされて中標津町公民館のオリジナル事業として昭和四十八年から全道展中標津巡回展に取り組み、はや本年度で十回を迎えることになりました。観覧者の多くは、回が重なることに、それぞれの作者に対するファンができてきており、今年はどんな作品だろうかと心待ちに待っているほどであります。

十回を数えるうちには開催に当って色々な苦労がありました。開催期間中の夜中に大きな地震があり、展示パネルが傾くなどして、常直者からの電話で駆け付け夜を徹してパネルの補強をするなど、大切な作品を預かっていますと、色々と神経を使うも

のであります。

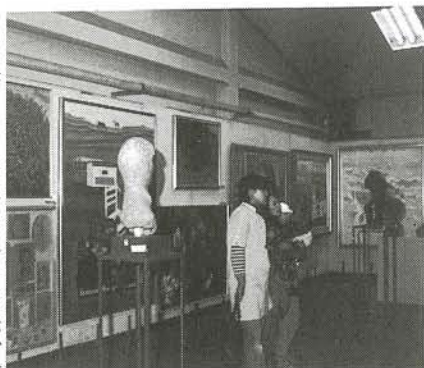
また数年前のことではありますが、会場の外に立てる看板を作成すべく、デザインを考えておりましたが、ゆきついたところは、協会から送られてきましたポスターを拡大模写しようということになりました。主催者の了解をとり、看板店に発注したのであります。我が公民館にも大変堅い方がおりまして、ポスターを写すとき、「裸婦の『ヘアー』」は描かぬように」とのお達し。さて看板も出来上がり、いよいよオープンというとき、オラが町のジャーナリストさんが現われ、「この看板はおかしい。いくら模写にしても、『ヘアー』がないのは作者の意図を踏みにじるものだ。」「いや公民館の前に立てる看板なので、それはウマクない。」言々と、大激論となり、なにかしら訳の解らぬ芸術論にまで発展しましたが、結論は、原画に忠実に「ヘアー」を描くことと相成りました。かくして堂堂たる看板が出来上がり、無事オープンの運びとなりました。どういう訳かこの年は、例年になく観覧者数を見ることができたのであります。

「ヘアー」論争の翌年からだったでしょうが、全道展事務局も、このことを知ってか知らずでか、看板も巡回されるようになってきました。以来こういった苦労もなくなり、今では笑い話として語りつがれているのであります。

函館展

会員・木村 良

この度ZENに巡回展の奮戦記のような



写真は中標津巡回展会場

ものを書くようにと言われましたが、考えれば函館の場合は確か三回展から開催したように覚えています。その間事情があつて何回か抜けたかも知れませんが、ともかく巡回展では一番多くやっているので開催する方も観覧する方も定着しているように思われます。然しの間、先輩会員、共催の道新、会場の丸井の努力とご協力の賜物であることは言うまでもありません。然し定着ということは、ともすると陋性

に流れる恐れのあることも否めないこと、より新鮮により魅力あるものへと会員一同、事ある毎に話し合い協力し合うことに励んでいます。

第36回展が昨年八月二十七日から九月一日まで開催し一応の成果をあげたものと思つています。現在会員二十名（絵画、彫刻、工芸）会友一四名の世帯になり、市長からも全道展というものの存在が函館の美術界に大きく貢献していることが認められています。

このような状態になると自らそこに規約というようなものが必要であろうということとでこの度、本展の会則に規り地区の会則を、ほんの骨子だけのものが設けたことは意義あるものと思ひます。その骨子は全道展の巡回展を開くことと、その他必要な事業と運動を行うということです。

巡回展を開くに当って一番問題になるのは何処の地区でもそうだろうが、会場のこととで、今のところ③さんの多大なるご援助によって快く開催できますが、会員の数も年々ふえるのでスペースに限界があるため、今後考えさせられる問題として美術館の建設がある。幸い当地にもその動きと運動があり実現も可能のようですが？然しこれは単に、地区だけの問題でなく、十個所で開催されるようになった今日、全道的にこの運動が展開されるよう、道や市町村に働きかけることも全道展としての大きな事業ではないでしょうか。

地方から出品する者にとつて考えさせられるのは輸送のこととで、これはあくまでも個人の責任に於て行うものですが、出品者への啓蒙と会員、会友の便宜のため一括輸送の方法を昨年度から実施しています。これは経費と労力の面からの考慮で、これからその成果は挙るものと思つています。任に当る方々は大変ですが会の発展のため、何年交代かで後輩の為に尽すことも地方会員の親切心であり、会の意志を固める一つの方法かとも思っています。因に函館地区の事務局も二年交代で行うようになりま

た。

金道展作家探訪(5) 玉村拓也 会員 —その華麗なるイメージ—

文
寺崎源治



この作家について書くのだが、困惑。玉村さんと私の距離を、測定するのが、むずかしい。
今は昔の物語りになってしまふのだが、実兄和也さんのお宅に、会報の印刷をお願いに行った時であったと思う。版画の話に熱中して時間を忘れる。孔版のベテランである氏に教わる所が多かった。その折に、三点ほどの版画を出して見せて下さったのが、玉村拓也其の人の作品との、最初の出会である。

調子の美しい、非具象画、大きな量感をもつて私を魅了する。「札幌出身。東京で活躍している。すごい版画家。」先輩の言葉が、頭をよぎる。

夕方、室内が薄暗くなってくる。幻想味をおびた空気の中で、虚像が瞬時に仕上がる。「背が高く」「筋肉質」「ちよつと喧嘩が強い」幻見体験が、頭をもちあげるほど、強い作品であった。

其の虚像を、たしかめようともせず、持ち続けること数年。

虚像はいつか風化する。

温和な人柄、洗練された、都会人である実像にふれた時、からつぽの様相を呈して、空想癖を反省するのだから。

版画家は、優雅な美男子、といふ事になっている。但し仲間うちで、彼、然りである。

六〇年代に、版画の個展は少なかったし、公募展における場も狭かった。そんな背景の中で、版画の可能性を掘り起していったのが、玉村さんではないのだろうか。本の頁からポロポロと可能性が、出てくるものではないのだから。思考。理論。体力。といふことになる。一步一步であったと思う。

時間の単位が、一日から一年、そして十二年一廻りと言う。版画家に飛躍は無い。飛躍は観客の為にある。現在、札幌での版画展が多いのに

は驚く。デパート、画廊、と会場も多様。版画の特長でもある複数性の強みなのか、売値が安いからか、環境が、大きく変化しているのは確かな事実と思う。

昨日も、東京の広告代理店から電話があり、作品と、小文をある新聞に掲載しないかと言う。どの様に理解すべきなのか。単なる商行為として考えるべきか。もう版画が、そんな所までいつているのか。大衆性を生れながらにして持っている版画は、両刃の剣なんだろう。アトリエで制作して居るだけでは、すまされなく、なっているのかもしれない。

その中で、作家が、一番冷たさと、暖かさを感じるのは個展かもしれない。

玉村さんが七五年頃個展をされた時の印象は、鮮明である。版種によつて表現のパターンがかなり違ってくるものです。初めての銅版画との事でした。「五月の風がそこはかとなく雰囲気を作る」「女性が軽やかに微笑する」「愛の刈入れは五月がいい」彼の描く女性、線を孕み静止する。腐蝕銅版の線描は難かしいと思うのだが、的確に空間をつかんでいる。見事だと思った。デッサン力もさることながら、イメージが美しい。銅版での線描は、基本技法の一つでもあるが、其の表情の変化は豊かであり、諧調が無限に続く。

銅版画は、とても楽しいものでもある。諸兄も一つ手がけてみては如何がなものか。

もうふた昔も前にならうか。自前の講習会をよくやった。自分の技法を公開し、誰が講師といふでもなく、スキンシップがあったのであろうと思う。現況は、それぞれに作家活

オーク画材

札幌時計台
ギャラリー

〒060札幌市中央区北1条西3丁目
札幌時計台文化会館 ☎261-8971

洋画・日本画材料

大丸藤井
セントラル

札幌・南1西3



写真は函館巡回展会場

「旗なんて重くていやだ」と言うだろう。
 「お山の大将 旗頭」そんな題名の版画があった。図録が見あたらないので正確ではない。三角形の構図、単純化されたフォルム、一言で鋭い風刺と言ってしまう訳にはいかな作家の、精神や感覚の広さをみるからです。
 我等が日常の中で正視しなければいけない事件がいくつかある。風刺の矢を何処に射かけるか、客観的に射程内になれば痛さは感じないだろう。痛い笑いが風刺ではないのか。それがある。
 笑いだけなら、テレビのスイッチを入れるとよい。
 モナリザの微笑も良いけれど、たべものが違い過ぎるし、愛が旗を立て、団体旅行する

動に懸命だ。版画黄金時代とまではゆかなくとも、銀ざらぎんの時代にしたいものだ。
 版画は何時もさりげない。玉村さんに、そんな時代の一方の旗頭になって欲しいものだ。

「髪の長い女の子」木版23×20cm



場面も、ほゝえましい、と、思うのだが、あまり好きにはなれない。
 遠景だけの風景を見た。色彩はあくまでも透明で、かすかに人の気配を感じる。旅行者かもしれない。家族は別々のふるさつを持つ、いつも春風が吹く。

版と七人展、版画の脇にデッサンがあった。デッサン（下絵）には作家の苦しさ、うめき声、造形上の愚乗りがあふれているのだが、それがない。（制作のプロセスを聞いた事がないのだが）

もう準備完了。
 あのスピード感のあるタッチ、色彩が、さらにエネルギーを倍率にする。

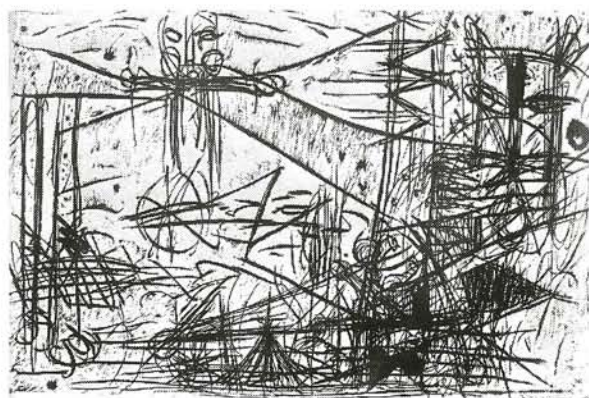
人物がゆるやかに上昇してゆく。
 気流に乗って。

失われた水平感覚が、離陸のサインだ。
 無重力は、自由自在。

それにつけても、玉村拓也さんを貴重に思っている。



「旗頭・その賛意」木版72×51cm



「博士の車」木版60×90cm

『ルーベンスとその時代』展

1982年5月13日(木)～6月6日(日)

北海道立近代美術館

●入場料 一般 700円(500円)

高大生 500円(300円)

小・中生 300円(200円)

主催 北海道立近代美術館、北海道新聞社
 企画 北海道立近代美術館、北海道新聞社
 協力 印刷の美を、私達は考えます

中西印刷株式会社

札幌市東区東苗穂町505番地 ☎011(781)7501

緑の空中庭園に囲まれた
ギャラリー

大同ギャラリー

札幌市中央区北3条西3丁目
 札幌大同生命ビル TEL 241-8271内88

ざんしんデザイン

良心的な製品



株式会社 松山 錦縁店

札幌市狸小路5丁目 TEL(代)251-9000

●画業55年国松展 5月4日～9日札幌◎ ●難波田竜起展 11月近代美術館 ●佐藤忠良展 1983年3月近代美術館

トビックス

北海道が生んだ情熱の画家
上野山清貢画集
五七年二月発売ノ

上野山貢三郎編

■B四判変型 クロス張り

■一三〇ページ

■用紙 アートポスト一八〇kg

定価 一、二〇〇〇円

発行 北海道新聞社

●全道展札幌地区小品展

6月7日(月)〜12日(土)

会場・札幌大同ギャラリー

おねがい

●会員、会友、一般の方で住所、電話等が変更しても知らせてくれない方が多くて運営、連絡に支障しています。必ず事務局宛に一報下さい。事務局・編集委員より

●今年度の全道展(札幌)では前売券を発売します。関係諸氏の御協力をお願いいたします。市内プレイガイド、道新事務局、会員にお申出下さい。くわしくは事務局まで。

お知らせ

◎全道展地区連絡委員会一部改選

一昨年地区委員会制が確立し、活動しておりましたが、一部改選されました。各地区の会員・会友はもとより一般の方でも、全道展に関する要領・意見がありましたら、連絡委員会まで連絡下さい。

▼札幌地区連絡委員会(石狩・後志・南空知) 渡会純治(事務局兼任)

札幌 ☎〇一一(五八)二二五二八

▼函館地区連絡委員会(渡島・松山) 木村 良(新)

▼旭川地区連絡委員会(上川・留萌・宗谷・北空知) 遠山隆義(新)

旭川 ☎一六六(六五)三九六八

▼日胆地区連絡委員会(胆振・日高) 北浦 晃(新)

室蘭 ☎一四三(五九)四〇七三

▼釧路地区連絡委員会(釧路・根室・十勝・網走) 斉藤 一明

釧路 ☎一五四(三三)〇八一八

近いうちに、十勝を独立し帯広に連絡委員会を置く予定です。

▼東京地区連絡委員会(東京周辺) 渡辺真利

船橋 ☎〇四七四(七二)四三三一

仲間のたより

● はじめての絵本、しまふくろうのみずうみが福武書店より刊行されます(三月一日発行)。童画ではない私の持つ絵のそのまをつかいました。最近関心がたかまってきた大人も見れる絵本のつもりですがどうなることか心配です。

江別・手島圭三郎

● 今年も北方風景シリーズ「トルソのある部屋」編と題した個展を開くことにしました。昨年同様又皆様の御指導宜しくお願い致します。

札幌・大地康雄

● 平生の御無沙汰おゆるし下さい。去年十月久しぶりで北海道の景色を描きました。楽しいでした。富良野・支笏湖など、ほんとうに北海道の秋は美しいですね。

東京・田中忠雄

● 雪国育ちの私にとって雪景スケッチは欠かせない年中行事です。幸い二月初旬平岸から中島公園まで歩いて雪景の素材を貯える事が出来ましたが、大雪がからりと晴れた翌朝であること、本人が休日であること二条件が満たされるのは、一年に2・3回しかないというのが悲しい現実です。

苫小牧・浅野武彦

● 石狩町花川に移転し、1カ月になり

ました。近くに会友の木村富秋さんの住いもあり、又自然のとても美しいところ。今「ふたり」というテーマで毎日描いています。6月の全道展には、いい作品を出品したいです。

石狩・川本ヤスヒロ

● ネパールへ行きたい。ネパールへ行きたい、いつも夢みています。今年は、なんとか実現したく思っています。誰かネパールの資料くれませんか。

恵庭・田中ヨミス

● ちまみち作品を作っています。少し風邪がきびやがりますがカバーしようと思つてます。皆さん風邪に御注意を。

小樽・伊藤 薫

● 函館地区委員は木村良さんに、交替しました。

函館・折原左エ門

● 一月の東京での個展(大阪フォルム画廊)を終え一息ついたところですが、そろそろ五月に小樽で行う個展の準備にとりかかっています。油彩、版画、デッサンなど60余点を展示する予定です。ついで折にでも、ご覧いただければ幸いです。

札幌・北山寛一

● 第4回東京個展(文春画廊・1月18日〜1月23日)の最終日に熱烈なファン5人を発起人として東京赤い帽子の会のファンクラブが結成され、今後ファンの拡大募集をすることになりました。シンボルマークは自製の赤い帽子。発会式は文春前のスイスというレストランで、美術評論家、歌手夫妻、北川豊氏を加えて盛りあげられます。終わってドイツ酒場にくりこんで、大いに飲み歌って散会しました。これに刺激されて、地元苫小牧や札幌、帯広にもファンクラブが誕生しそうな気配です。

苫小牧・遠藤ミラン

● 春の展覧会(札幌美術展、日本版画協会展、春陽展)作品制作の毎日。

札幌・寺崎源治

● 従兄(橋野友繁)が二十二年ぶりに里帰り(ラジラジより)銀座にて個展を開きました。今私は7月の個展に向けて制作中、寒いせいか絵具の乾きが遅いので思うようにはいきません。

夕張・土屋千鶴子

● 12月25日〜1月12日まで、ネパール

に行つてました。なかなか絵にはなりませんがその内なんとかなればと思つております。

旭川・渋谷正巳

● 昨年は度々上京していましたが、今年は札幌に落ちついて仕事したいと思つております。

札幌・八木伸子

● 日本版画展、春陽展の作品に馬力を掛けています。例年、2月3日は大変です。

札幌・尾崎志郎

● 11、2年個展を休んでいましたが、1月11日から6日間、時計台ギャラリーで開催いたします。この頃体調を悪くしてしましたので、皆さんに御案内もいたさず失礼しました。江別・諏訪田勝衛

● 事務局の仕事不馴れのため、まごついておりますが37回展の会期、場所が決定しております。新しい会場は明るく、広くて良い会場です。冬眠からさめて頑張らなくてはと思つてます。皆さんも頑張ってください。札幌・池田正之助

● 全道展が市民ギャラリーで開催されるとの事、私もいつになく頑張つております。昨年にもまして今年はと思つております。

札幌・福島孝寿

● 1月に文芸春秋画廊(東京)で個展を開きましたが、その折り大谷久子会員、渡辺真利会員が足をこんで下さいました。

苫小牧・北川 豊

● 函館事務局を担当することになりました。宜しく。事務局・木村良、会計・昆勢津子、会計監査・鶴川五郎、三箇三郎。

函館・木村 良

● 新年のスタートであつた「フルデ展」久々に爽快でした。ナチスの苛酷な弾圧にもかかわらず己を貫いた、この北方ゲルマンの精神を心から賛美したい。

札幌・嵐 玲子

● 自由に歩ける世界が欲しい。勿論精神的にです。枯渴を一番恐れます。

札幌・米決邦子

● 昨年の時計台ギャラリーでの個展、多数の方々の励ましをいただきありがとうございます。4月より今までの仕事を離れて、絵に専念することにいたしました。よりよい作品が、このことによつて。いろいろ計画をたてています。

本年は旭川、大雪画廊で旭川の諸先輩の

道都さっぽろの中心に
美と芸術のひろば

アートギャラリー さいとう

札幌市中央区南1条西2丁目㊦隣
丸一ビル2F T 011(222)3698

企画・貸ギャラリー

ギャラリー予約受付中



キヤリ-コリア
EUREKA

〒060 札幌市中央区南3条西1丁目
和田ビル2F ☎22-4788

お声をいただきたく思っています。

● なぜか82年は4つの個展と、8つのグループ展、団体展に出品することになりました。考えると気が狂いそうになりますので一つづつ落着いてトライして行くつもりです。

● 一昨年函館記念展(35回)目録巻頭に提唱した地域ブロック展を試みてはいるかと思ひます。この近年、友人知己に病人、死にせる者多く、自分も命を取つたと感じています。

● 函館・池谷虎一

● ただいま四月の春陽展、五月のリト

グラフィック展の仕事ですすめており、四

個展グループ展等の日程と会場

- 森谷一画展
2/25~3/25 ほし(砂川)
- 草展 竹岡羊子参加
3/1~3/6 望月画廊(東京)
- 尾崎志郎画展
3/3~ 盛岡サイエンス
- 手島圭三郎しふくろうのみずうみ原画展
3/4~3/9 東急デパート(札幌)
- 手島圭三郎画展
6/21~6/26 時計台画廊(札幌)
- 夏山亜貴王画展
3/6~3/12 エルム画廊(札幌)
- 本田明二画展
3/24~3/30 エルム画廊(札幌)
- 高橋三加子画展
3/25~3/30 旭川丸井デパート7階ギャラリー(旭川)
- 渡辺真利画展
3/26~3/31 画廊椿(千葉)
- 36会展 渋谷・竹内・谷口・本田・渡会参加
4/22~4/27 ギャラリーさいとう(札幌)
- 銅版画5人展 岡本早百合参加
4/26~5/1 時計台ギャラリー(札幌)
- 小島真佐吉画展
4/27~5/3 パークホテルギャラリー(札幌)
- 谷口一芳画展
5/4~5/23 ギャラリーレティナ(札幌)
- 北山寛一画展
5/2~5/6 市立小樽美術館
- 竹岡羊子画展
5/17~5/22 時計台ギャラリー(札幌)
- 7/10~7/25 DENVARセンターホール(アメリカ)
- 小川マリ画展
6/3~6/8 アートギャラリーさいとう(札幌)
- 大地康雄画展
6/28~7/3 時計台ギャラリー(札幌)
- 田中忠雄画展
6/28~7/4 エルム画廊(札幌)
- 川本ヤスヒロ画展
6/18~6/20 小樽産業会館2F(小樽)
- 土屋千鶴子画展
7/5~7/10 時計台ギャラリー(札幌)
- 八木保次画展
7/19~7/24 大同ギャラリー(札幌)
- 八木伸子画展
7/19~7/24 大同ギャラリー(札幌)
- 大友一夫画展
7月予定 苦小牧画廊(苦小牧)
- 望月正男画展
9/21~9/26 大丸画廊(札幌)

「仲間のたより」一般の方もどしどしお寄せ下さい。次回は七月下旬頃までに事務局へ送って下さい。」

音更・岡沼淳一

● 昨年の帯広巡回展の搬出後、降り出した豪雨で帯広へ足止めされた遠藤会員と眺めた十勝川の大増水。僕は河ばかり眺めているわけを話すと「岡沼君は河賊だ」と言われました。あの豪雨のおかげで流れ出た直径98cmの楡の太木をどう料理するか思案中です。37回展には乾燥せず使えそうにありませんが、

● 全道展・図録・ZEN等への意見・要望・質問など

● 全道展会期早めにお知らせ頂けると幸甚です。東京・小島真作吉(答)「ページ記載の如く来年の会期が決っております(事務局)」

● 「全道展」とはどんな人間の集まりなのか、皆さんの制作姿勢等、生の声をたくさんZENの中で伺いたく思います。

● 大いに皆さんの発言を待っています。議論の橋渡しに利用下さい。」

住所・呼称変更など

- 藤井 正 〇六〇一〇二 石狩郡 当別町字西町(四月から)
- 田中 忠雄 〇二〇三(郵便番号変更)
- 川本ヤスヒロ 〇六〇一〇三 石狩郡 石狩町花川南二条二丁目二番地
- 土屋千鶴子 〇一〇三三三 夕張市末広二丁目一〇六番地
- 前野 昌市 〇札幌市白石区栄通十八丁目九二
- 伊藤 寿朗 〇札幌市西区平和二条五丁目三三
- 鎌田選之入 〇函館市昭和二丁目十二番
- 小沢ミドリ 〇北川 豊 〇羽山 欣周 〇山口 惣市 〇清田 操
- 〇友井 勝章 〇阿部 俊夫 〇可部谷弘美 〇天野 宮蔵 〇野田 静江
- 〇大友 一夫 〇大友 一夫 〇大友 一夫 〇大友 一夫 〇大友 一夫

(以上の分を、昨年の図録住所録に訂正して下さい。)

- 〇小沢ミドリ 〇北川 豊 〇羽山 欣周 〇山口 惣市 〇清田 操
- 〇友井 勝章 〇阿部 俊夫 〇可部谷弘美 〇天野 宮蔵 〇野田 静江
- 〇大友 一夫 〇大友 一夫 〇大友 一夫 〇大友 一夫 〇大友 一夫

● 全道展に関するお問合せは次の所へ。
札幌市南区澄川六条十二丁目渡会純
方電話〇六〇一(五八)二五二八
担当北海道新聞社事業局文化部全道展
大通西三丁目〇九〇九(二二二)二
一〇一、会員、会友で会費未納の方は早急
に納入して下さい。郵便振替口座、正
小樽八六一七、全道美術協会池田正

個展・グループ展の貸額稼と額稼製造
販売・公募展の搬入・搬出の代行作品
運送には是非御利用下さい(多少にか
かわらず御連絡下さい)

美術展覧会会縁・美術品取扱専門店

北 陽 美 術

〒061-24 札幌市西区手稲前田657-110

☎ 011 (682) 6340

おくやみ
全道展出品者の福井のば
らさんは、昨年十二月に敗
血症のため急逝されました。
ここに謹んで御冥福を祈
り上げます。